

# 近代国家へのあゆみ | 二つの戦争と日本・アジア

## 1 単元の概要

日清戦争や日露戦争を経て日本の国力や国際的な地位が向上しました。なかでも日清戦争の賠償金でつくられた八幡製鉄所は、その後の日本の発展に大きく関与しました。またそのかげには、八幡製鉄所の鉄づくりを支えた、筑豊炭田で働く人々の姿もありました。一方で、差別をなくす運動や選挙権を求める運動などもこの時期に起こりました。

## 2 学習のねらいと手だて

- 博物館の学習では、筑豊炭田で働く人々と官営八幡製鉄所の発展を調べる活動を通して、鉄作りを中心に日本が近代国家へと進む様子を理解させる。そして、それを支えた人々の努力や願いに気付くようにする。



山本作兵衛の炭鉱記録画（1975）

## 3 指導計画（総時数6時間）

学習活動と内容	○指導・支援上の留意点 ◆展示物など	時間
I 日清・日露戦争の様子について調べ、その背景にある国際状況や戦争の影響について話し合い、学習問題をつくる。	○ 教科書の資料を基に、二つの戦争が起こったわけを考えさせる。	1 時間
II 日露戦争のあとの日本とアジアの国々との関係について調べる。	○ 教科書の資料を基に、多くの国民は、戦争の勝利を喜んでいる一方、疑問を抱く人もいたことを理解させる。 ○ 朝鮮を植民地とし、我が国が朝鮮の人々に苦しみを与えたことを理解させる。	1 時間
III 不平等条約を改正していった経過を調べ、日本の国際的な地位の変化について話し合う。	○ ノルマントン号事件の絵を基に、日本と欧米諸国との関係について話し合わせ、条約改正の様子を理解させる。	1 時間
IV 戦争のあと産業はどのように変わったかについて、筑豊炭田や官営八幡製鉄所を中心に調べる。	<b>博物館での学習</b> ○ テーマ館「明治時代以降の北九州」の展示資料を活用し、八幡製鉄所の様子とそれを支えた筑豊炭田の様子を調べさせる。 ◆ 炭鉱記録画 ◆ 炭鉱切符 ◆ 大日本帝国製鉄所全景 ◆ 製鉄所及付近図	1 時間
V 産業の発展と同時に起こった様々な問題を考える。	○ 田中正造の取組について調べたり、米騒動について話し合ったりすることで、産業発展の問題点を考えさせる。	1 時間
VI 差別をなくす運動や選挙権を求める運動を調べ、明治から大正期にかけての政治や社会の変化を話し合う。	○ 水平社演説会の訴えや平塚らいてうの文章、選挙権の拡大のグラフを基に話し合い、平等な社会を目指す運動がさかんになったことを理解させる。	1 時間

## 4 学習展開例（1時間扱い）

学習活動	○指導・支援上の留意点	◆展示物など
<b>① 筑豊炭田の様子について調べよう。</b> I 4年生の学習を想起する。 II 炭鉱記録画（坑内の労働）を見て、何をしている様子を描いているのかを話し合う。 III 炭鉱記録画（坑外の労働）を見て、筑豊炭田が活気づいている様子を話し合う。		
	○ 4年生で学習した堀川の川ひらたの学習を想起させ、水運として堀川が活用されていたことに触れる。そして、運ばれていた石炭は、筑豊炭田で採掘されたことを知らせ、学習の導入とする。  ○ 石炭を知らない児童も多くいると思われるので、どのように採掘を行い利用していたのかを補説する。また、絵中の吹き出しに書かれている説明を読ませ、内容を考えさせる。 ○ どのような状況で作業していたのかを考えさせ、そのときの気持ちを想像してワークシートに書かせる。  ○ 十分に観察してから、絵から分かったことをワークシートに書かせる。 ○ 絵中の吹き出しに書かれている説明を読ませ、分かったことをワークシートに書かせる。	◆川ひらたや石炭の展示（テーマ館 江戸時代の北九州）  ◆炭鉱記録画（坑内の労働） ◆炭鉱で使った道具  ◆炭鉱記録画（坑外の労働） ◆現地の娯楽を表した記録画
<b>② 八幡製鉄所について調べよう。</b> IV 八幡製鉄所の位置を地図で調べる。 V 建設当時の八幡製鉄所の様子を調べて、ここに建てられた理由を考える。		
	○ 展示資料を見て、現在スペースワールドやいのちのたび博物館がある場所に敷地があったことを確認させる。 ○ 八幡製鉄所の位置をワークシートの地図で確認させる。  ○ 展示資料や説明を見て、八幡製鉄所の様子を理解させる。 ○ 建設には日清戦争の賠償金が使われたことを知らせる。 ○ この地に八幡製鉄所が建てられたわけについて、筑豊炭田と結びつけて考え、ワークシートに書かせる。	◆製鉄所及び付近の地図  ◆大日本帝国製鉄所全景  ◆説明「筑豊の石炭と輸送」



炭鉱で使われた道具類



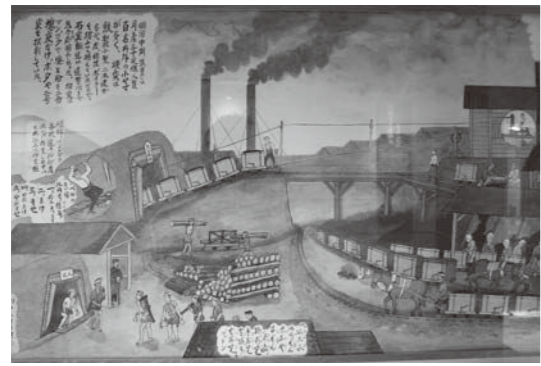
八幡市鳥瞰図



5 博物館での学習

1 筑豊炭田の様子について調べよう。 博物館での学習

博物館のテーマ館「明治時代以降の北九州」には、2011年に田川市の所蔵作品が世界記憶遺産に登録されたことでも有名な、山本作兵衛の記録画が展示されています。彼の最大の作品とされるこの展示とそこに書かれている言葉、実際に炭鉱で使った道具、炭鉱切符などをしっかりと観察して読み取ることで、当時の筑豊炭田の様子や生活の様子を知ることができます。そして、分かったことや思ったことをワークシートに書く活動を通して、八幡製鉄所をはじめ日本の近代化のために努力した人々の気持ちを考えることができます。



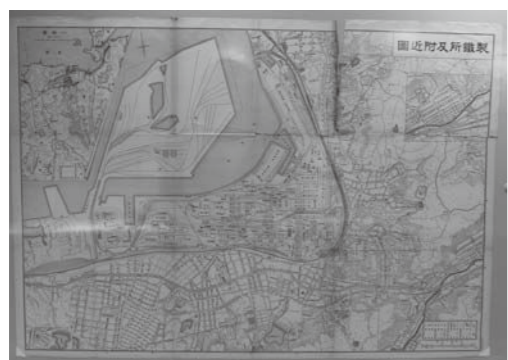
炭鉱記録画



炭鉱切符

2 八幡製鉄所について調べよう。 博物館での学習

博物館のテーマ館「明治時代以降の北九州」には、官営八幡製鉄所に関する資料も展示されています。筑豊炭田の石炭の利用を考えてこの地に建設されたことを、「製鉄所及付近図」などを参考にして理解させてください。また、「いのちのたび博物館」への行き帰りに見える「東田第一高炉史跡」にも触れることで、当時の八幡製鉄所は、まさに今自分たちが住んでいる場所にあったことを知らせると、より実感がわくと思われれます。また、建設当時の様子を伝える資料「大日本帝国製鉄所全景」を観察して気付いたことをワークシートに書かせ、どのような工場が建てられたのかを考えさせてください。そして、八幡製鉄所を中心に多くの工場が建てられたことで、かつて四大工業地帯の一つとまで言われるようになった北九州市の発展を理解させてください。



製鉄所及附近図



大日本帝国製鉄所全景

1 筑豊炭田の様子について調べよう。

(1) 炭鉱記録画を見て、気づいたことを下の表にまとめましょう。

どんな作業をしているか	せまいところで、機械を使わずに働いている。トンネルの中で危ない感じがする。
働く人の様子はどうか	暑そう。きつそう。男の人も女の人も同じように働いている。
機械や道具などについて	大きな機械は使っていないで、ほとんど手作業だ。馬も働いている。今より仕事が大変そう。
そのほかに気付いたこと	

(2) 炭鉱で働く人々はどんな気持で作業していたでしょう。想像して書いてみましょう。

とても危険な仕事だけれど、掘った石炭が日本の鉄作りに使われたり、みんなの生活に役立ったりするから、頑張ってる。

2 八幡製鉄所について調べよう。

(1) 左の「製鉄所及付近図」と右の現在の八幡の地図を比べて、八幡製鉄所があった場所を現在の地図で確認しましょう。また、気付いたことを下の□に書きましょう。



現在のいのちのたび博物館やスペースワールドがあるところに、昔は八幡製鉄所があった。とても広い面積にたくさんの工場が建てられていた。

(2) 「大日本帝国製鉄所全景」の資料を見て、八幡製鉄所はどんな工場だったのか、気付いたことを書きましょう。

いろいろな種類の工場があった。煙突もたくさんあり、煙が多く出ていた。広い面積を使って大きな工場が建てられていた。鉄をつくるためには、大きな工場がたくさん必要だったのかもしれない。

(3) この地に八幡製鉄所が建てられたわけを、筑豊炭田と結びつけて考えて書きましょう。

鉄作りに必要な大量の石炭を、近くにある筑豊炭田からすぐに運ぶことができたから。